

第678回番組審議会報告

2023年5月9日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
山本局長補佐、岡墻部長、京原チーフプロデューサー、松本プロデューサー、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組「関西ジャニ博

道頓堀川ウナギ捕獲ドキュメント SP」について

(2023年3月5日(日) 14:30~15:30 放送)

【番組概要】

大阪・関西を舞台に、芸人よみこと関西ジャニーズ jr. 所属のA え!group が体を張って街を調査し、2025年大阪・関西万博に向けて大阪、関西を盛り上げるロケバラエティ番組。琵琶湖淀川水系の生態調査を出演者、専門家と共に真剣に取り組み、昨年11月、大阪の道頓堀川で絶滅危惧種の「ニホンウナギ」の生息を公式に初めて確認し、特別番組にまとめて放送しました。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *バラエティというよりも、ドキュメンタリー番組を見ているような感じで引き込まれた。バラエティ番組がきっかけで行政と一緒に調査をして新たな発見があったことは、社会的に非常に意味がある番組だったと思う。
- *大変見ごたえのある番組だった。知的なバラエティ番組として非常によくできている。粘り強く調査を続けて結果を出したスタッフに心から敬意を表したい。
- *単にウナギがいたかいなかったかではなく、行動パターンに至るまで踏み込んでいたのはすごく面白かった。道頓堀という身近な場所に立ち止まって新

しい世界を発見していくのは、瑞々しい視点で好感が持てた。

- *道頓堀という大阪の象徴的なスポットと絶滅危惧種のニホンウナギというキヤッチーさが、ダブルでいい効果が出た。若い人たちに「環境問題に関心を」と言ってもなかなか伝わりにくいのが、身近なところをテーマにして、敷居が低くてよかったと思う。
- *普段あまり知ることのない公的または研究施設の裏側の努力とか、技術の高さ、研究員さんの働いてる姿にスポットを当てるのは、テレビ番組にとっても視聴者にとってもすごくいいことだと思う。いろいろな施設をリサーチして紹介すれば、いろいろな研究に市民の目が向くと思った。
- *水質が飛躍的に改善する中でウナギが戻ってきたという指摘があったが、改善した背景に関して踏み込み切れていない。一部の視聴者は物足りないと感じるのではないか。
- *最初に道頓堀川の水の中を見た時に、正直、あまりきれいじゃないなと思ってしまった。以前どれぐらい汚くて、どんな活動があつてきれいになって、どういう過程にあるのかわからなかった。
- *途中から結構入りにくい番組じゃないかと思った。最初を見逃すと、これから発見するのか、発見した後さらに探しているのかがよくわからない。
- *水中カメラの映像を見た時にどの地点かわかりにくいので、地図を常に示してほしいと思った。
- *リアルタイムPCR装置がすごく面白かったが、これはウナギだけに敏感な装置なのか、ウナギだけに敏感になるように設定したのかという説明が欲しかった。
- *人がどんどん減っていくのが見えてすごく不自然だったので、もうちょっと工夫してほしい。ファンが見たら、後半はひとりしか出ていないのでちょっと物足りなさを感じるのではと思った。
- *バラエティ番組なので若者言葉がいろいろ乱れがあるが教養番組的に育てていくのであれば、局としてどのあたりまで許容するのか。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 1時間に番組をまとめる際にウナギを獲るドキュメントをメインにしたため道頓堀川がきれいになった説明部分については時間が短くなってしまった。
- * PCR検査に関してはウナギに設定して実施したということをきちんと説明すればよかった。
- * 若者言葉は彼らのテンションが上がった時の自然な言葉だと思う。出演者の熱いコメントや感情が湧き出た時に、視聴者が共感してくれたりするので熱量が高いものに関しては使っていくべきだと思っている。
- * 台本のない番組を作っていくのは難しいが、発見した時は出演者とスタッフの感動がとても大きかった。生態調査を始めてから、環境の研究者や生物生態系の関係者、地域を愛する人たちなどから番組へコメントをいただいております、今度も新たな展開を考えたい。

以 上